会報　たづむら　第113号

鶴群

平成29年8月吉日発行

釧路市タンチョウ鶴愛護会

〒085-0245
釧路市阿寒町上阿寒23線38番地
釧路湿原美術館内
Tel 0154-66-1117　Fax 0154-66-1121

（題字：加藤 秋霜氏）＜皇太子殿下御歌碑より抜粋＞

釧路市タンチョウ鶴愛護会総会の様子

平成29年度総会終了

釧路市タンチョウ鶴愛護会　会長　吉田 守人

お魚タイムの活魚を、従来の役2倍の1トンを与えたいと全国の皆様に不足の資金20万円を募集したところ、265,000円の資金が集まりました。ご寄付頂いた皆様には、厚く御礼申し上げます。

おかげさまで、1トンの調達の目処が立ち注文し喜んでおりました。

ところが、高病原性鳥インフルの発生し12月15日から給仕を中止いたしました。なかなか終息せず、活魚が与えられないでおりましたが、2月15日から猛禽類を近づけないい方法としてウグイをカットしバケツにいれて与える方法で実験を行いました。しかしバケツに首を入れてくれず失敗に終わりました。別な方法も試してみたかったのですが2月28日で終了いたしました。
阿寒の給餌場に飛来するタンチョウは、繁殖率が高く、与えられないのが残念です。

余ったウグイは、丹頂鶴自然公園や国際鶴センターで飼育されているタンチョウに与えられました。

今シーズンは､いつものように鳥インフルの発生がなく、いつものように給餌できることを願っております。

ホームページのライブカメラは、最初のカメラでは画質が悪いため更新をしました。とてもよい動画の配信ができ好評でした。

タンチョウボランティアの養成講座を開催し新しいボランティアガイドが誕生いたしました。今後の活躍が楽しみです。

本年は､10月に東広島市で行われる｢お酒祭り｣にツアーを募集して訪問使用と現在も募集しております。この会報が発行される段階でも団体扱いになるためには数名が足りません。皆さんで「賀茂鶴酒造さん」をなんとしても訪問したいと考えておりますのでご参加よろしくお願いいたします。

愛護会29〜30年度の役員です

副会長　大山　昇

愛護会の仕事に携わってから五十年が経過しました。最初のころは二百羽そこそこだったツルの数も、多くの鶴を愛する方々の様々なご協力によって、今では二千羽に迫ろうとしています。これまでご協力いただいた多くの方に心からお礼と感謝を申し上げたいと思います。

私は現在八十五歳。健康である限り、老骨に鞭を打ってツルのために微力ではありますが尽していきたいと考えています。

副会長　鶴田　眞智子

丹頂愛護会の中の一つに丹頂ほろろん会を平成 19 年に発足いたしました。愛護会活動の中で郷土芸能丹頂音頭の普及を図ると共に阿寒で初めて丹頂音頭が発足したのが昭和 45 年で 2 年間続きましたがその後絶えましたが平成元年布伏内小学校の子供達の運動会に丹頂音頭を躍らせたいとの話がありその後阿寒小学校からも要請を頂き私一人で教えていましたが平成 19 年に愛護会の中にほろろん会が出来町内の盆踊りいもすすんで参加普及に努めています。

副会長　坂本　淳

この度、釧路市タンチョウ鶴愛護会の副会長を務めさせて頂く事となりました坂本淳と申します。

阿寒国際ツルセンターの近くで家族とともに、野菜専業農家を営んでおります。タンチョウには子供の頃から慣れ親しんでおりますが、保護活動の大切さや事業を継続していく事の難しさについては、愛護会の役員になって初めて気付かされた事も多々あります。愛護会会員の皆様におかれましては、今後ともご指導ご鞭撻を頂けます様よろしくお願いいたします。

理　事　平間　育子

釧路市民憲章は、わたしたちは荒野に丹頂が舞い夕焼けが太平洋を染める釧路の市民です。と湿原と丹頂と青い空を美しく格調高く謳いあげています。

ふるさとの誇りとして阿寒町では、子どもも大人も皆で守り育てきました。私は、市町合併によりお仲間に入れさせて頂き、当会の貴重な取り組みを知り、周りの人に入会を勧めて来ました。これからも丹頂に思いを寄せて行きたいと思います。

理　事　小関　としみ

今年 10 月で 60 年。阿寒中学校でツルクラブが誕生し、観察日誌記入開始からの歳月です。昭和 32 年 12 月に生息状況一斉調査が始まり、この時には校下で 66 羽確認されたという記録があります。現在も一斉調査は継続しており、今年も 12 月 5 日に活動を予定しています。現在は、鶴特別委員会画活動の中心を担っていますが、一斉調査は生徒全員が取り組んでいて、タンチョウ保護活動の歴史と伝統を引き継いでいます。

理　事　植村　泰雄

阿寒高等学校長として３年目となる今年、初めて愛護会理事を務めます植村泰雄と申します。本校の校歌に「鶴舞う丘の上　富士が根のはろかにて…」と歌われているとおり、阿寒のシンボル的存在であるタンチョウを大切に守っていく気持は、本校の生徒たちの心にもしっかりと育んでいきたいものです。昨年から国際交流が始まっている台湾の台北市立中正高級中學にも「タンチョウの里」としての阿寒のＰＲを積極的に勧めて参ります。

理　事　木村　郁夫

校舎やアリーナ（体育館）の壁、玄関マットにタンチョウが描かれている阿寒小学校。校長室入り口にはタンチョウの剥製が飾られている学校。毎年冬になるとグラウンドの特等席にタンチョウのための給餌場が手作りされる学校。そんな素晴らしい阿寒小学校へご縁があり赴任させていただいてから、早いもので３ヶ月あまりが経ちました。微力ではありますが、皆様のお役に立つことが出来ましたら幸いです。どうぞよろしくお願い申し上げます。

監　査　梅崎　明生

愛護会の業務の執行状況についても監査しています梅崎明生です。私も、出来る限り、愛護会の活動に参加したいと思っています。本年度は 7 月 16 日の「草刈り・除草」8 月 27 日の「釧路湿原美術館 de お気楽ゲル祭り」10 月 6 ～ 8 日の広島「さけまつり」ツアー。平成 30 年元日のタンチョウの飛来数当て当の行事がありますので参加・応募して下さい。会員の皆様と愛護会の活動を盛り上げていきたいと思いますのでご協力をお願いします。

事務局　髙野　英弥

平成 26 年度の総会において事務局長に就任し、3 年経過しました。27 年度には、タンチョウ鶴愛護会 50 周年記念式典等を行い多くの会員の方々にご協力をいただき感謝を申し上げます。

これまでのようにタンチョウの生息環境の保護に努めるとともに、これらを人々に普及活動を推進し、地域とのつながりをより大切にした支援に努めていきたいと考えています。よろしくお願い申し上げます。

次回のご紹介

理事　松実 寛さん、荒木 千枝子さん、山﨑 一彦さん、佐藤 正寿さん

監査　橋本 貴子さん

顧問　高橋 良治さん、山﨑 定作さん、伊藤 博通さん

鶴だより

釧路市動物園 ふれあい主幹　松本 文雄

7 月になり、釧路にも短い夏が訪れています。今年は全国的に異常気象で、釧路地方も例年にない猛暑日が続きました。内陸部の阿寒や鶴居、標茶などでは連日 30 度を超える日が続きました。

タンチョウは暑くても大丈夫ですか？という質問を受けることがありますが、特に問題はないと思います。ただ、暑いのが好きなわけではないようで、日中は木陰や水辺でじっとたたずんでいて、夕方、涼しくなってから食べ物を探して動きだすことが多いです。

この時期は、繁殖に成功した家族はヒナの子育てに大忙しです。早いものでは生まれてから 3 か月ほどたち、ヒナはそろそろ飛ぶための準備も始めなければなりません。親はヒナにたくさんの食べ物を与えなくてはなりませんから、家族の行動範囲も広くなってきています。近年は広い湿原ではなく、人家の近くで営巣するタンチョウも増えてきて、小さなヒナを連れたタンチョウが道路近くに姿を見せることもあります。そのため、ヒナが交通事故にあうこともあり、残念ながら今年は 2 羽のヒナの死体が収容されました。郊外の道路は見通しもよく、スピードを出す車が多いのですが、運転にはくれぐれも注意してほしいものです。

また、この時期はタンチョウの羽換わり（換羽〈ルビ：かんう〉）の時期でもあります。鳥は定期的に羽が生え換わりますが、タンチョウの翼にある大きな羽（飛ぶための重要な役割を果たす羽で風切羽と呼ばれています）は 2 年に 1 度、生え換わります。大きな羽がポロっと落ちて、下から小さな羽が伸びてきます。一番大きな初列風切羽は 10 枚ありますが、ほぼ同時期にすべて落ちてしまいます。新しい羽根が生えてくるまでの一ヶ月くらい、換羽中のタンチョウは飛ぶことが出来ません。この時のタンチョウはいつもにもまして警戒心が強くなります。飛べなくなるのは危険でもありますが、この時期に子育てをしているタンチョウの場合、ヒナはまだ飛べませんから、親も飛ぶことはほとんどありません。子育て時期に合せて換羽しているともいえます。いずれにしても神経質になっている時期ですので、タンチョウを見かけてもそっと見守ってあげてください。

草刈り作業

7 月 16 日（日）

10 時より、苗畑として借用地 30 アールに育苗している場所と、５０周年記念植樹した場所を昨年２０㎡の取得した場所２か所、苗木の草刈り作業を頑張りました。

特にこの日は阿寒地区としてはとても暑く 35.1 度の猛暑で草刈りは大変でした。中休み、しっかり水分を取りました。12 時で終了する予定でしたが、あまりの暑さでしたので早めに終了しました。来年からは 5 月や 6 月に草刈りやってほしいとの要望がありました。暑い中での参加ありがとうございました。